

全国漁業信用基金協会 大分支所

1 大分県の紹介

大分県は「アジアの玄関口」である九州の北東部に位置し、北側は周防灘に、東側は伊予灘、豊後水道に面しています。

総面積は約 6340.70km²あり、人口は 1,097,919 人（令和 5 年 7 月 1 日現在）です。18 市町村があり、県庁所在地は大分市。

特色は、温暖な気候に恵まれ、海や山などの豊かな自然、その中で育まれた新鮮で安全な食材、宇佐神宮ろくごうまんざんや六郷満山、国宝臼杵石仏まがいぶつをはじめとした摩崖仏などの貴重な歴史的文化財など、多くの地域資源があります。

【癒しを求めて】

県内に数多くある温泉は、日本一の湧出量と源泉数を誇り、色々な泉質も味わうことが出来る、まさに『日本一のおんせん県おおいた』の代名詞を掲げるにふさわしい資源を有しています。

ストレス社会のなか、大分県に癒しを求めにいらっしゃいませんか？



(別府の湯煙)



(温泉から見る別府湾)

【美味しいものが数多く】

「The・おおいた」ブランドとして、かぼすブリ・かぼすヒラメ、関あじ・関さば、おおいた和牛などの高級食材をはじめ、かぼすや椎茸、にら、ベリーーツ苺など四季折々の素晴らしい食材が満載です。

郷土料理として有名な、だんご汁・やせうま・りゅうきゅう丼・とり天なども、大分に来るなら必ず食してみてとお勧めしたい。『美味しい場所＝大分』で、おなか一杯舌鼓を打ってください。



(城下カレー)



(りゅうきゅう)



(とり天)



(だんご汁)

【アクティビティ・観光も楽しめます】

大分空港から大分市内をつなぐ、14 年ぶりに復活するホーバークラフトは、一度は乗船してみる価値あり（令和 6 年秋から運行予定）。

レンタカーを借りて、くじゅう連山の絶景の中をドライブし、国東や臼杵で歴史を感じ、湯布院や別府で温泉につかり、佐伯では美味しい魚料理を食べるなど、アクティブにやれること満載でワクワクさせてくれることでしょう。

若い人もご年配の方も、各々のペースや価値観に必ずや合致する過ごし方ができる、そんな県です、大分県。



(くじゅう連山ミヤマキリシマ)



(湯布院金鱗湖)

2 大分県の水産業

大分県の水産業は中～高級とされる魚介類が中心で、そのため海面における生産量は全国 22 位ですが、生産額は全国第 11 位と高くなっています。(令和 4 年 3 月時点)

瀬戸内海と太平洋の海流がぶつかり合う豊後水道で捕れる「関あじ」「関さば」や、日出町で捕れる「城下かれい」は大分県の高級ブランド魚として有名です。

また、養殖のカボスぶり・カボスひらめ・クロマグロなども、近年人気の魚です。

ただ、全国的にも言えますが、漁獲量の減少や漁業者の高齢化、魚離れによる消費量の低迷といった問題に加え、近年の新型コロナウイルス感染症やウクライナ・中東紛争の影響等により、本県水産業者にも厳しい状況が続いています。

この様なことから、大分県漁業協同組合では新たな水産物加工処理施設を起工し、完成後(令和 6 年 8 月頃)はブリフィレや切り身等の加工品が増産される見込みで、県内外での販路拡大がおおいに期待されます。

生産面では、本格稼働する漁業公社国東事業場を活用し、広域的な海域ごとに海底耕うんや増殖礁を設置するなどした放流敵地に種苗を拠点的に放流することで、水産資源のさらなる回復を図ろうとしています。

また、引き続きブリの人口種苗の生産技術開発を行うとともに、カキ養殖試験等による水質改善などの取組みを進めることで、養殖業の生産基盤の安定と産地出荷体制を強化しようとしています。

販売面では、県内の消費拡大を進めるため、量販店などと連携した魚食普及活動を行うとともに、県外では「おおいたの魚パートナーシップ量販店・飲食店」の新たな認定や既存店でのフェア開催などを通じて、大分県水産物のさらなる販路促進を図っています。

これらの取組みを着実に進めることで水産業の成長産業化を進め、大分県水産業の今後の発展につなげていきます。

また、大分県では 2 度目の開催となる『第 43 回全国豊かな海づくり大会』が、令和 6 年 11 月 10 日に開催されます。水産業の振興・発展と本県水産業の魅力について全国へ広く発信していきます。



(関あじ・関さば)



(カボスぶり・カボスひらめ)



3 大分支所の概要 (令和5年3月末現在)

- 住所:大分市府内町 3-5-7 (水産会館内)
- 会員数:256 会員
- 出資総額:828,800 千円
- 保証残高:2,188,508 千円
- 職員数:4 名

4 大分支所の取組み

大分県では漁獲量の減少や漁業者の高齢化、魚離れによる消費量の低迷に加え、様々な外的諸問題の影響等もあり、近年新規保証件数・保証残高は減少傾向にあります。

今後とも、水産業をとりまく環境は厳しさが増していくことが予想されますが、その様なときこそ、中小漁業者から信頼され、頼りにされる存在となるよう、金融機関、漁協等としっかり連携をしながら、支援して参ります。